

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 23 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2013～2016

課題番号：25300021

研究課題名(和文)ポスト震災社会の社会的多様性と宗教に関する国際比較研究

研究課題名(英文)Social Plurality and Religions in Post Disaster Societies

## 研究代表者

木村 敏明 (Kimura, Toshiaki)

東北大学・文学研究科・教授

研究者番号：80322923

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究ではそれぞれの社会において災害が宗教的多様性に対して与えた影響を可視化するための一つの指標として、宗教施設数の変動に注目した。阪神淡路、東日本大震災、インドネシアではアチエ(2004)、パダン(2009)、ニラス(2005)、ジョグジャカルタ(2006)、そして台湾のデータを収集しその変動のパターンを明らかにした。さらにこれらの背景、外部からの復興支援の影響について、日本、インドネシア、中国、トルコの事例で個別に事例研究をおこなった。それらの知見をもとに、宗教的多様性に配慮した復興支援のあり方、およびそこで人文・社会科学が果たすべき役割について海外研究機関やNGOと議論をおこなった。

研究成果の概要(英文)：1. In order to analyze the influence of disaster to the religious plurality in affected area on macro level, we focused on the transition of the number of the facilities of religions in affected area. We collected the data of Kobe, Miyagi, Fukushima, Iwate (Japan), Aceh, Nias, Sumatra Barat, Yogyakarta and Taiwan and clarify the pattern of the transition of religious balance between major and minor religions before and after great disaster.  
2. Based on these results, we tried to show the background and the influence of religious aid to these transition in detail by ethnographic studies on each area.  
3. In addition, holding international conferences four times, we shared these results with the local research institutions (ex. Gadjah Mada Univ. Indonesia, Sichuan Univ. China, Mimal Sinan Univ. Turkey) and discussed the role of humanistic and social sciences to facilitate religious aid taking religious plurality into account.

研究分野：宗教学

キーワード：災害と宗教 復興 宗教的多様性 東・東南アジア

### 1. 研究開始当初の背景

東日本大震災以降、被災社会の再建のために宗教が果たす、あるいは果たすべき役割に注目が集まっている。被災地では、地元の宗教施設による被災者受け入れ、教団による組織的な救援活動や援助、犠牲者の弔い・追悼、心のケア、あるいは伝統行事や芸能による共同体再生など、多様な活動が展開されてきている[木村 2012a]。宗教研究者の側でも、これまでの研究活動で培ってきた資源を活用して、被災地への様々な支援活動がおこなわれた。宗教による救援活動のネットワーク化、超宗派的活動の側面的支援など大きく目立ったものばかりでなく、多様な形で被災地支援がおこなわれた。さらに研究者によるそれらの活動への参画の経験は次第にリフレクティブな議論の場に引き出されつつあり、「宗教の社会貢献」や「公共宗教」といった枠の中で理論的な考察も進められつつある[稲場 2011]。

申請者もまた東北地方に暮らす研究者として、自らの専門性をいかした活動を模索してきた。一つは、教員、職員、日本人学生、留学生、出入り業者など多様な東北大学関係者の震災体験を記録保存することを目的とした「東北大学震災体験記録プロジェクト(とうしんろく)」である。この成果は申請者と今回の研究分担者高倉との共同監修で『聞き書き震災体験 東北大学 90人が語る 3.11』(新泉社)として出版されている。また、高倉を代表者とした宮城県からの委託調査「宮城県における被災した無形文化財調査」のメンバーとして、あるいは岩沼市史の調査執筆員として沿岸地域における民俗調査にも従事してきた。さらに、超宗派的な被災者ケア活動を展開してきた「心の相談室」の活動にもその立ち上げから理事として関わりをもってきた。

このように被災地の中で活動・研究を進める一方で、申請者は2004年12月のスマトラ地震以降、インドネシアにおける自然災害と宗教の問題に関心をよせてきた。2010年度からは科学研究費補助金(基盤研究(c))により「ポスト災害社会における宗教の役割に関する宗教学的的研究」(2012年度で終了)というプロジェクトを立ち上げ、スマトラで調査活動に従事している。そのような申請者の視点からすると、今回の震災後の宗教者、あるいは自分も含めた宗教研究者の活動において、海外における同様の巨大地震の事例が参照されてしかるべきではないかと思われる。確かに、阪神淡路大震災や中越地震の事例はかなり引き合いに出され(三木 2012)、同じ日本国内ということもあってすぐに応用可能な有効性をもった。それに比べると、社会的文化的歴史的に異なった背景をもつ海外の事例は、参照の緊急度は低いように思われるかもしれない。しかし、異なった社会的・文化的コンテキストにおける事例を点検することは、我々が見落としがちな問題点や新たな視点をもたらしてくれる。日本のポスト震災社会において宗教をめぐる進行しつつある事態を中長期的な視点から位置づけ、評価するために、外部の事例との比較考察は有効な手段である。

### 2. 研究の目的

本研究では、巨大な震災を経験した地域において内外の諸宗教による支援活動が被災社会の多様性に与える影響を、一万超の死者を出した四つの巨大地震、すなわちトルコ北西部地震(トルコ)、スマトラ沖地震(インドネシア)、四川地震(中国)、東日本大震災(日本)を事例として比較研究をおこなうとともに、ポスト震災社会を「共生社会」へと向けて開く方途を模索する研究者の国際的協力体制を構築することを目的とする。巨大な震災のような社会的危機に直面した場面においてはどうしても多数者のアイデンティティの主張が強まり、社会が保守化する傾向がある。宗教はそのような傾向を時には助長することもあり、またある場合には抵抗の手段ともなりうる。本研究ではそのような功罪両面をあわせた宗教の可能性を検討し、中長期的な視点から、望ましい宗教と復興の関わりを検討する。

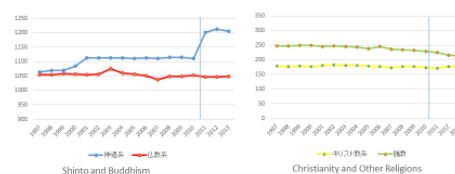
### 3. 研究の方法

上記の目的を達成するため、本研究ではインドネシア、中国、トルコの三か所で現地調査をおこなう。それぞれの地域には、地域での十分な研究遂行能力をもった研究者を地域担当者として配置し、その担当者が現地研究機関をカウンターパートとして協力しながら研究を遂行する。毎年2月には各自の研究成果を報告するための研究会を開催するが、その場には東日本大震災に関わる宗教者、あるいは宗教研究者を招き、研究成果の意義について議論をおこなう。また現地のカウンターパート研究機関では、順番にワークショップを開催し、現地の研究者、学生たちと議論をおこない問題意識の共有をはかり、実質的な研究ネットワークの構築を図る。最終年度にはそれらの研究機関から研究者を招いて国際シンポジウムを開催する。研究成果は、国内外の学会、雑誌論文、シンポジウムなどで社会に発信する。

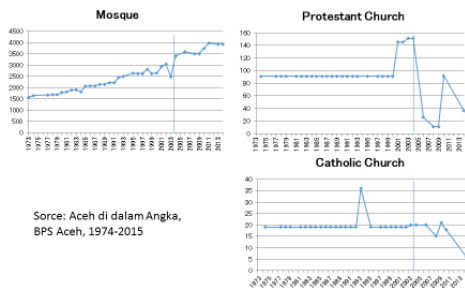
### 4. 研究成果

本研究においてはまずそれぞれの社会において災害が宗教的多様性に対して与えた影響を可視化するための一つの指標として、宗教施設数に注目した。中国、トルコは該当する統計が入手できなかったが、日本では阪神淡路と東日本大震災の前後、インドネシアではアチェ(2004)、パダン(2009)、ニアス(2005)、ジョグジャカルタ(2006)、そして台湾のデータを収集した。以下に2例を示す。

The number of religious facilities before and after East Japan great earth quake(2011) in Miyagi prefecture



The number of religious facilities before and after Great Sumatra Earthquake(2004) in Aceh Province, Indonesia



また、これらの変動の背景に何があり、外部からの復興支援がそこにどのような影響を与えたかという問題について、日本、インドネシア、中国、トルコの事例で個別に事例研究をおこなった。それらの詳細については以下の論文等で発表をおこなっている。また、それらの知見をもとに、宗教的多様性に配慮した復興支援のあり方、およびそこで宗教学を中心とした人文・社会科学が果たすべき役割について、海外研究機関と連携をとりながら議論をおこなった。また、2014年にはインドネシア・ガジャマダ大学、2015年東京、2016年には中国・四川大学で国際会議を開催し、現地の研究協力者、それ以外の研究者、現地で復興支援をおこなうNGO関係者などの参加のもと意見交換をおこなった。さらにこれらの成果を生かすため2015年と2016年にはガジャマダ大学大学院で国際共同授業を開講した。

##### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計19件)

He Yansheng (何燕生), Life and Death in a Post Disaster Society, (Kimura ed.) Dynamics of Religions in Post Disaster Societies, 査読無, 2017年, 25-44.

Sashima Takashi, Transformation of Culture and Religion in the Multicultural Society of Turkey after the 1999 Marmara Earthquake: Mourning the Deceased in the Kocaeli Province, (Kimura ed.) Dynamics of Religions in Post Disaster Societies, 査読無, 2017年, 19-24.

Kimura Toshiaki, The Problem of Suffering in Post Disaster Society -A Case of the West Sumatra Earthquake-, (Kimura ed.) Dynamics of Religions in Post Disaster Societies, 査読無, 2017年, 3-18.

Kimura Toshiaki, Rebellion Myths, or rebellion against Myths: The case of the eruption of Mount Merapi in Java,

Indonesia, (Kimura ed.) Dynamics of Religions in Post Disaster Societies, 査読無, 2017年, 45-55.

Kimura Toshiaki, Revival of Local Festival and Religion after the Great East Japan Earthquake, Journal of Religion in Japan, 査読有, vol.5, 2016年, 227-245. DOI:10.1163/22118349-00502001

Takakura Hiroki, Lessons from Anthropological Project related to the Great East Japan Earthquake and Tsunami, Joh Gledhill(ed) World Anthropologies in Practice: Situated Perspectives, Global Knowledge, London: Bloomsbury, 査読有, 2016年, 211-224.

⑦ 佐島隆, トルコ・イズミトにおけるシェヒートの碑, 地中海学会月報, 査読無, 2016年, 6-6.

何燕生, ポスト災害社会における宗教の役割と死生観のゆくえ, 『法然仏教の諸相 藤本浄彦先生古稀記念論文集』, 査読有, 藤本浄彦先生古稀記念論文集刊行会編, 法蔵館, 2014年, 953-983.

⑨ 佐島隆, トルコ・ポスト震災社会の遺体処理, 『宗教研究』, 査読無, 第89巻別冊, 2015年, 350-351.

⑩ 何燕生, 現代中国における仏教の社会参加「生活禅」を中心に, 『宗教研究』, 査読無, 第88巻別冊, 2015年, 286-287.

Sukru Aslan, The Perception of Earthquakes in the Muslim World, Example of the 1999 Marmara Earthquake in Turkey, 『東北宗教学』, 査読有, 2015年, 37-55.

[学会発表](計31件)

Kimura Toshiaki, Bridging Religio-Fobia Society and Religion -The Role of Religious Studies in Japan, Natural Disasters, Religion, Humanistic Concern, 2017年11月22日, 四川大学(中国).

Takakura Hiroki, Why Intangible Cultural Heritage is necessary in Disaster policy for sufferers of Fukushima Nuclear Accident? Natural Disasters, Religion, Humanistic Concern, 2017年11月22日, 四川大学(中国).

Suhadi, The Function and Dysfunction of Religion in the Natural Disaster Recovery in Indonesia, Natural Disasters, Religion, Humanistic Concern, 2017年11月22日, 四川大学(中国).

Sashima Takashi, 多文化社会トルコ共和国におけるマルマラ大震災後の文化・社会の変容, Natural Disasters, Religion, Humanistic Concern, 2017年11月22日, 四川大学(中国).

何燕生, 震災死亡與佛教的作用: 以四川和日本東北大地震為例, Natural Disasters, Religion, Humanistic Concern, 2017年11月22日, 四川大学(中国).

閔麗, 論人的生存境況與宗教的價值兼論宗

教的人文精神及其表現形式, Natural Disasters, Religion, Humanistic Concern, 2017年11月22日, 四川大学(中国)。

Kimura Toshiaki, Rediscovering Religious Role as a Social Resilience, UIN Seminar; Southeast Asia and Beyond, 2017年6月22日, Islamic State University Sunan Kalijaga (インドネシア)

Kimura Toshiaki, 災害を受け止める伝承知 - インドネシアの事例から, International Symposium Contradictions of Asian Development and a Search for Life and Death Studies, 2016年3月12日, Hallym University (韓国)。

Sukru Aslan, The Perception of Earthquakes in the Muslim World, Example of the 1999 Marmara Earthquake in Turkey, International Workshop of the Religious Role in Post Disaster Societies, 2016年3月7日, 大阪国際大学(大阪)。

Kimura Toshiaki, Religious Diversity in the Post Disaster Societies, International Workshop of the Religious Role in Post Disaster Societies, 2016年3月7日, 大阪国際大学(大阪)。

Sashima Takashi, トルコ大地震: 18年後の宗教・社会・文化, International Workshop of the Religious Role in Post Disaster Societies, 2016年3月7日, 大阪国際大学(大阪)。

Suhadi, Religious Study's Contribution to the Study of Disaster, Indonesian Experience, 震災後の人文学プロジェクトの回顧と研究者の役割の探求, 2015年11月24日, 東北大学東京分室(東京)。

閔麗, The value of Religion in Disaster Relief, Analysis based on the 5.12 Wenchuan Earthquake, 震災後の人文学プロジェクトの回顧と研究者の役割の探求, 2015年11月24日, 東北大学東京分室(東京)。

木村敏明, 記述と規範の間で - 宗教学と諸宗教の協働の事例から -, 震災後の人文学プロジェクトの回顧と研究者の役割の探求, 2015年11月24日, 東北大学東京分室(東京)。

佐島隆, トルコ・ポスト震災社会における遺体処理, 日本宗教学会, 2015年9月6日, 創価大学(東京)。

Kimura Toshiaki, Revival of Festival and Religion after East Japan Great Earthquake, International Association for History of Religions, 2015年8月25日, Erfurt University (ドイツ)。

木村敏明, 震災で揺らぐ公認宗教精度 - ポスト震災のインドネシア, 宗教社会学研究会, 2015年7月11日, 大阪国際大学(大阪)。

木村敏明, ポスト震災社会における宗教間バランスの変動とその背景, 印度学宗教学会, 2015年5月31日, 東北大学(仙台)

Kimura Toshiaki, Reevaluating Religious

Role as a Social Resilience in Post 3.11 Japan, The 6<sup>th</sup> International Graduate Students and Scholars Conference, 2014年11月19日, Gadjah Mada University (インドネシア)。

何燕生, 中国における社会参加仏教 - 「生活禅」を中心に -, 日本宗教学会, 2014年9月13日, 同志社大学(京都)。

② Takakura Hiroki, Toward an Applied Disaster Anthropology: From Reflections on Post Disaster Recovery Local Memory Recording and Intangible Cultural Heritage Project, International Union of Anthropology and Ethnological Sciences Intercongress 2014, 2014年5月16日, 幕張メッセ(千葉)。

〔図書〕(計1件)

高倉浩樹, 展示する人類学 - 日本と異文化をつなぐ対話, 昭和堂, 2015年, 1-246ページ。

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

木村 敏明 (KIMURA, TOSHIKI)  
東北大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号: 80322923

### (2) 研究分担者

佐島 隆 (SASHIMA, TAKASHI)  
大阪国際大学・国際コミュニケーション学部・教授  
研究者番号: 40192596

何 燕生 (HE, YANSHENG)

郡山女子大学短期大学部・教授  
研究者番号： 00292186

高倉 浩樹 (TAKAKURA, HIROKI)  
東北大学・東北アジア研究センター・教授  
研究者番号： 00305400

阿部 友紀 (ABE, TOMONORI)  
東北大学・大学院文学研究科・研究員  
研究者番号： 90645821

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

Sukru Aslan  
ミマル・シナン芸工大学・社会学部・教授

閔 麗 (MIN LI)  
四川大学・道教文化研究センター・教授

Suhadi  
ガジャマダ大学・大学院学部宗教学・間文  
化学研究センター・講師